

6月10日（月）、本庁舎エレベーターが完成し、供用が始まりました。市役所のバリアフリー化と利用者の利便性向上を目的としており、同日は、潮来市身体障害者福祉協議会による乗り初めが行われました。

その後、市長室で懇談され、同協議会の松崎会長は、「待ちに待ったエレベーターが完成した」と喜び、「元気なうちに市役所でエレベーターに乗れるとは思わなかった」という声も、参加者から上がりました。

ロビー奥に設置されていますので、来庁された際は、ご活用ください。



ほみたいまら 潮来
く人にやさしいまちづくりを目指して



6月10日（月）～12日（水） 東京パラリンピックへ 合宿地視察

車いすマラソンで東京パラリンピック出場を目指している、喜納 翼さんとコーチの下地 隆之さんが潮来を訪れ、常陸利根川沿いなどのコースを試走しました。普段は沖縄を拠点にしていますが、関東地方の暑さに対応するための事前合宿地を検討しているとのこと。

現在、車いすマラソンの世界ランク2位であり、パラリンピックでのご活躍も期待されます。



「茨城県手話言語の普及の促進に関する条例」 が施行されました

手話が言語であるとの認識に基づき、手話を広く県民に普及し、使用しやすい環境を整備するため、平成30年10月2日に施行されました。

鹿行地域でも、「手話奉仕員養成講座」を毎年開催するなど、手話によるコミュニケーションの養成に取り組んでいます。

「交通バリアフリー教室」が 潮来・牛堀小学校で行われました



障害福祉や障がい者等に対する理解を深める機会として、市内小学生を対象に、交通バリアフリー教室を企画。

関東運輸局茨城運輸支局と潮来市が主催し、茨城県バス協会及び関東鉄道の協力により、6月14日（金）に牛堀小学校で、25日（火）に潮来小学校で、それぞれ4年生を対象に開催されました。

講師は、茨城県地方自治研究センター研究員で、テレビ番組などでも活躍されている有賀 絵理さん。

体験を始める前に、有賀さんから、

- ①当事者の思い：どんなことが悲しいか、苦しいか、うれしいか
- ②介助者の思い：どんなことに苦労しているか、うれしいか
- ③周りの人々の思い：どんなことをしてあげたら、声をかけたらうれしいかと、考えてほしいことを3つあげていました。



目や耳、関節の動きを制限する「高齢者疑似体験セット」を装着してバスを乗降



バスに車いすで乗降する体験



体験教室を終え 講師の有賀さんより

とても素直な児童たちで、障がい者の方の大変さや、普通に生活できることの素晴らしさをみんなが理解してくれたのがうれしかった。今日、学んだことを忘れずに、困っている人がいたら、お手伝いをしてあげてほしいですね。

体験を終えた児童より

介護者だけでなく、車いす本人も大変だということが分かった。目が見える、耳が聞こえることが、とてもうれしくてすごい事だということが分かった。